

第1回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に力を伸ばすことのできる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしたい。

問題A

(1)、(2)はスクリプトの前半からの出題だったが、選択肢の中には紛らわしいものもあったため、放送内の正解の根拠を確実に聴き取って判断する必要があった。(1)のaや(2)のbのように、一見もっともらしいが放送中では言及されていない情報を含む選択肢を選んだ答案が多かった。

(3)は地図を見て、訪問予定の家の位置を答える問題であるが、誤答はeが多かった。男性の発言のWe go one block and at an apartment building, turn left.でeの位置がan apartmentであることを押さえておきたい。道案内でよく使う表現をここで確認しておくとうい。

問題B

Part 1 (2)はaやcを選んだ誤答が多かった。時刻や年齢など、数字が多く出てきたので、注意して聞き取りたい。(4)の記述式問題では「親と一緒にいられない時」と「楽しく過ごしてほしい」の2点を明示する必要がある。内容を完全に取り違えているものは0点であるが、部分的にこの内容が含まれていれば部分点を与えている。

Part 2 ディクテーションを出題した。スペルミスの減点は各1点であるが、その他の単語の抜けや単語の誤りは配点分の減点とした。(ア)ではof the workersのofやtheを聞き逃しているもの、(イ)ではa planをplannedとしている答案が目立った。ディクテーションでは、a, of, theのように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、文法や語彙の知識に照らして答案に誤りがないかを確認することの2点に注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(2)では空所の前にあるtoを含め前置詞の処理に苦勞している答案、特にtoの後にopenを続けたためにforの置き場がなくなってしまったものが多かった。また、(4)では前後の文脈と照らし合わせながらwhile節内のbe動詞と主語の省略を見抜く必要があった。

問題B 和文英訳

「日本観に関する随想」というテーマで、日本語を読み換えたり、時制に注意して動詞を決める必要がある出題とした。減点されたところを必ず見直して、同じ間違いを繰り返さないように注意しよう。

以下のような採点基準で、減点法で採点した。

Ⓐ ○私は、…時代を思い出しました。 ……3点
○日本人が、ヨーロッパこそ文明国だと異口同音に礼賛していた ……7点

「異口同音に」をallやmost ofといった表現を駆使して上手に言い換えた答案が多かった。一方で「思い出しました」「礼賛していた」「文明国だ」の時制の統一がとれていない答案も散見された。復習の際には、時制の一致についても一度確認しておくたい。

Ⓑ ○今日ほど、私たちが…に自信を持っている時はありません。 ……8点
○自分たちの文化 ……2点

「今日ほど…な時はない」という構造を比較表現を用いて書いた答案が多かったが、比較の対象の抜けや、比較表現の語順の誤りで減点されているものも散見された。これを機に各種比較表現の知識を再確認しておこう。

◎ ○ヨーロッパからの旅行者の中には、…日本好きになっている人もいます。 ……5点
○彼らにとってなじみの薄かった日本式のもてなしを受けて ……5点
「～好きになっている」という日本語を意識するあまり become to like ～ としている答案が多かった。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の下限の半分(25語)未満のものについては、文法・語彙点を与えない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点、8点、6点、4点、2点、0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・ どの案を選んだかが明確でないもの
- ・ 案を選んだ根拠の説明が不十分なもの

「校庭の花を増やす」案を選んだ答案の中には具体的に植えたい花を列挙するだけにとどまっているものもあった。自分の意見に説得力をもたせられるような文章の構成を考えたい。

4 長文読解

象を見に行った筆者一行と、その時の経験から学んだことを主題にした英文であった。難解な語彙が多いが、登場人物の動き、位置関係などを把握しながら読み進めていきたい。

(1) では、c を選んだ答案が多かった。本文の第1段落の内容に加え、空所の前の1文における情景描写と筆者一行の行動を理解しておく必要がある。

(3) company の解釈を誤っている答案が目立った。象の気配が強くなり、その場にいる誰もが company がいることを疑わなかった、という文章の流れに注意して答案を作成したい。

5 長文読解

文明の発達における鉄の重要性について述べた論説文。全訳も参照しながら全体の内容を再確認しておくとうい。

(1) ○ Iron is a natural gift of the earth ……3点

○ and almost as essential to the development of modern human civilizations ……4点

○ as oxygen is to animal life. ……2点

as ～ as…の構文の把握と、oxygen is (essential) to ～ の省略の読み取りがポイント。鉄と文明の関係を動物と酸素の関係になぞらえている点を理解して和訳できている答案が多かった。

(3) ○鉄製の農具の使用により ……3点

○食料の生産力が向上し、 ……3点

○その結果人口が増大し、 ……3点

○常備軍を抱えられるようになったから ……3点

の4要素から採点した。「食物の生産量が増えた」→「人口が増えた」→「国力が強くなった」という流れに「鉄製の農具の果たした役割」を肉付けするように解答を作成するとよいだろう。「農具」という点に言及していない答案が散見された。

(4) ○ It is not hard to see ……2点

○ why such deep knowledge of … became a magnet ……3点

○ around which a single powerful civilization eventually arose, ……3点

○ uniting the people of the two great river valleys. ……2点

形式主語の構文で to see 以下が真主語であること、around which 以下の関係詞節と a magnet の修飾・被修飾関係、分詞構文 uniting 以下の訳出がポイントであった。分詞構文の意味上の主語については明示されていないものも許容とした。

第1回 高2数学

総評

今回は、「3角関数」「高次方程式」「確率」「微積分」「図形と方程式」「ベクトル」「数列」の各分野を扱った。

全体的に、やや難しく感じた人が多かったようだ。間違えた問題については、「解答」などを参考にしっかり復習しておこう。さらに、できていた問題についても、自分の解法と「解答」、「解説」などを見比べていろいろな方針を身につけ、理解をより深めるようにしてもらいたい。

また、答案のつくり方についても意識しておくとうい。せっかくわかっている、理解していることが採点者に伝わらないと点数はもらえない。「解答」の記述も参考に、どのように書けばよいか、どの程度書けばよいかなどについて確認しておきたい。

問題別講評

1 小問集合

(1) 3角関数の加法定理などについてはよく理解できているようで、出来はよかった。できなかった人は公式の確認を行うなどしておきたい。

(2) 3次方程式を題材に、解に関する理解を問う問題。これも出来はよかった。

(3) 2つの等差数列の共通項に関する問題。キの出来はあまりよくない。「18」と答えている答案が目立った。本問は、具体的に和の値を求める必要はないことに着目し、素早く解きたいところである。

(4) とくにケは出来が悪い。重複して数えてしまうことのないよう、丁寧に解く必要がある。

2 微積分

3次曲線と放物線によって囲まれる部分の面積を題材とした微積分の総合問題。

(1) 比較的よくできていた。

(2) ここは差がついたところ。面積の立式はよくできているが、計算ミスが非常に多かった。「解説A」のように工夫をして計算する方法を身につけておきたい。

(3) (2)の結果に自信がもてなかったか、白紙が非常に多かった。

3 図形と方程式

領域と最大最小を題材とした図形と方程式の問題。

(1) 比較的よくできていた。

(2) (i) $\alpha = -2$ を代入したときの領域を正しく捉えられていない人が多い。直線 $x - 2y = 0$ が右下がりの直線になっているものや、領域が直線の下側になっているものなど。落ち着いて式変形すれば問題ないはずなので、もう一度確認しておこう。

(2) (ii) 白紙が多かった。場合分けの考え方が重要な問題なので、解きなおして正しく理解してもらいたい。

4 ベクトル

ベクトルからの出題で、ベクトルを苦手としている人が多かったか、出来は非常に悪かった。

(1) ここは比較的よくできていた。

(2) 出来はよくない。途中でBEの長さを求める設問があるが、これを手がかりに、線分の長さの関係を利用する、すなわち、方べきの定理の利用を考えて欲しいところだった。途中の設問がヒントとなることもあるので、注意しながら解き進めよう。

(3) 時間がなかった、(2)の結果に自信がもてなかったなどの理由からか、白紙が非常に多かった。

5 数列

点の列を題材とした数列の問題。

(1) 比較的よくできていた。

(2) 設定がややこしかったためか、方針が立てられていない人が多い。点の列は大切な考え方なので、必ず確認しておこう。

(3) 最後の設問ということもあるだろうが、白紙が非常に多かった。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (40点)

いずれも答に

- (1) **ア**: 5点, **イ**: 5点10点
- (2) **ウ**: 3点, **エ**: 3点, **オ**: 4点10点
- (3) **カ**: 5点, **キ**: 5点10点
- (4) **ク**: 5点, **ケ**: 5点10点

2 (40点)

- (1) (10点)
共有点の座標をすべて求めて 10点
- (2) (15点)
 $S(a)$ を立式して 8点
答に 7点
- (3) (15点)
 $S(a)$ の増減を調べて 9点
答に 6点

3 (40点)

- (1) (10点)
正しいグラフがかけて 10点
- (2) (i) (10点)
不等式が表す領域の概形を図示して 2点
最大値を求めて 4点
最小値を求めて 4点
- (2) (ii) (20点)
 $\alpha \geq 1$ の最大値を求めて 4点
 $\alpha \leq 1$ の最大値を求めて 4点
 $\alpha \geq 0$ の最小値を求めて 4点
 $-1 \leq \alpha \leq 0$ の最小値を求めて 4点
 $\alpha \leq -1$ の最小値を求めて 4点

4 (40点)

- (1) (15点)
 $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD} = -1$ を求めて 5点

\overrightarrow{AE} を \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AD} で表して 10点

(2) (15点)

BEの長さを求めて 5点

\overrightarrow{AC} を \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AD} で表して 10点

(3) (10点)

\overrightarrow{EM} を \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AD} で表して 5点

$\overrightarrow{EM} \cdot \overrightarrow{AD} = 0$ を得て結論に 5点

5 (40点)

(1) (10点)

答に 10点

(2) (15点)

x 座標を求めて 5点

y 座標の立式に 4点

y 座標を求めて 6点

(3) (15点)

P_n は直線OBの上側にあることを示して ... 3点

Q_2 と Q_4 は直線OBの下側にあることを示して

..... 2点

他の Q_n は直線OBの上側にあることを示して

..... 5点

答に 5点

第一回 高二国語

総評

時間制限が厳しかったためか、古文・漢文では白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋められるようにしよう。復習する際には、時間を気にせず丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

〔一〕 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。

(b) 「渴(き)」を「乾(き)」、(c) 「摂理」を「節理」などとしており文脈からずれているものや、(d) 「侮蔑」を「部蔑」「敏蔑」「蔑別」などさまざまに書き誤っているものが見受けられた。まず文脈を把握し、どのような意味の語が入るのかを確認すること。一字一字の意味を正確に把握し、書き間違えようがないようにしよう。

(二) 誤答は(ハ)が目立った。解説をよく読み、問題文中のどの表現に注目すればよかったのかを確認しておこう。

(三) 〔採点基準〕

〃 a人々が自明と見なししている事柄を b敢えて疑

わせ c再考を迫る〃 点を押さえて — 8点

* a部3点、b部3点、c部2点。

傍線部の後にある「常識を鵜呑みにせず、当たり前と思われている事柄を絶えず疑い、物事を根本から考え直す知的活動」を抜き出してきている答案が多かったが、これだけでは「はなはだ底意地の悪いひねくれた学問」という傍線部のニュアンスを説明し切れていない。人々に「敢えて疑わせる」(再考するように仕向ける)という、(しなくてもすむことをわざわざさせる)という要素を含めて説明しよう。

(四) 〔採点基準〕

〃 a哲学は何の役に立つのかと問題にされても b堪えて平静を装い、強いて反論はせず cただ、「人間は生活の糧などの直接的な効用だけを求めはしない」と説いて d目に見える形では役に立たない

e概念や価値を研究する〃 点を押さえて — 14点

* a部2点、b部2点、c部4点、d部各3点。

比喩表現のニュアンスを汲み取り、文脈に即して正確に説明する必要がある出題。設問にあるように「パン」「つぶやく」「痩せ我慢」という表現それぞれについて説明することを意識して解答を作成してほしい。(哲学は目に見える形で役に立つこととはない)という要素をふくらませて字数を稼ごうとしている答案が目立ち、「人はパンのみにて生きるにあらず」という言葉から読み取れる哲学の存在意義について、わかりやすく整理できているものは少なかった。また「痩せ我慢」という語について説明する、a部・b部の要素が抜けている答案も多かった。制

限字数が多めの記述問題に取り組む際は、解答にまとめるべき要素は何か整理してから、解答作成に取り掛かるようにしよう。

(五) 〔採点基準〕

〃 a有用性を無条件に肯定して自明と見なすことは止め b「何に対して」という文脈の中で有用性を捉え直す〃 点を押さえて — 10点

* a部4点、b部6点。

設問では『更新』し『深化』する」とはどうすることかを問われているのだから、まず現状の考え方を改めるといふこと、さらに理解を深めていくといふこと、二つの観点を押さえて説明しなければならぬ。単に「役に立つ」という概念について原点に戻って考え直す」とだけ述べている答案、「何に対して」という文脈を明確にする」という点しか押さえられていない答案が目立った。問題文全体の文脈を踏まえ、「自明のものとされてきた「役に立つ」という概念をどのように再構築しようとしているのか、整理して説明しよう。

(六) (i)・(ii)とも(i)を選ぶものが散見された。論の展開や表現の特徴について問う設問はセンター試験でも頻出。選択肢の表現の細部にまで注意を払って、正解を選べるようにしたい。

(三) 〔採点基準〕

(一) (a)で(ハ)の誤答が見受けられた。「屈託」の辞書義を確認しておこう。

(二) 「採点基準」

「a」「私」は男女の間につきものの煩わしさを理解できず、b他の女の子とは違い純一との会話を独占できる、c特別な地位にいる、d自分に酔いしれていた、点を押さえて — 10点

* a部4点、b部3点、c部1点、d部2点。

（男女間の煩わしさを理解できず）という要素まで説明できた答案は少なかった。当時の「私」が男と女の間に面倒くさくある筈だとわかっていたら、たとえ純一に「面倒くさくない・特別だ」と思われていると知っても手放しで喜ぶわけにはいかなかったはずだ。なお、「自分に酔いしれていた」の部分を「優越感に浸っていた」「得意になっていた」とまとめている答案もあったが、ここは「夢中」という語義を踏まえて「我を忘れていた・他のことが見えなくなっていた」という方向で説明してほしい。夢中になった背景にどのような事情があるのかを踏まえつつ、心情を丁寧に分析しよう。

(三) 誤答は(四)が目立った。このような長い選択肢の問題を吟味する際には、選択肢一つ一つにキズがないか丁寧に確認していく必要がある。自覚した恋心に戸惑う「私」だが、それを純一に打ち明けたいとまでは思っていないことをとらえてほしい。

(四) 誤答では(四)が目立った。解説にあるように、「私」が「リエ」に話しかける時点からの発言内容とリエの様子を整理し、心情をとらえよう。

(五) 「採点基準」

「a」自分にはない繊細さを持ち、恋心を体で表現できるリエに嫉妬し、b彼女の思いを純一に気づかせたくないという思いや彼女が純一の関心を引きつけるだろうという予感に心を乱され、c彼女の心を傷つけたかった、点を押さえて — 13点

* a部5点、b部6点、c部2点。

何をどこまで説明するか悩んだ様子の答案が多かった。傍線部の「そのこと」が直前の「傷つけてしまった」を指すこと、傷つける対象となるリエが「純一の関心を引きつけ、私の立場をおびやかす存在である」ことは多くの答案が押さえられている。一方で、私の「動揺」や「嫉妬」、リエの「繊細さ」まで指摘した答案は少ない。傍線部直前の「傷つけてしまったのに気付いた」という表現からは、初めから傷つけようという明確な目的を自覚していたわけではないことを読み取ってほしい。自分にはない繊細さを持つリエが純一を振り向かせるかもしれないという不安、そんなリエに対する嫉妬。解説をよく読み、リエをめぐる私の心情をとらえよう。

(六) 誤答は(四)が目立った。問題文中にはリエの視線が「媚を売」っている指摘部分がありまじらわしいが、「その鱗粉を……」の表現と結びつけるのは早急に過ぎる。また、リエに対する心情を「憎悪」とするのは言い過ぎ。表現の特徴についての問題は選択肢を比較検討していく姿勢が、よりいっそう重要となる。言い過ぎのものや明確な根拠のない

ものを確実に除いていくこと。

③

(一) まぎらわしいものもあるが、助動詞の意味の識別は古文読解の大事な基礎となる。ここで間違えてしまった人はもう一度しっかり復習しておこう。

(二) (a)「上下」を単語集などで見かけることは少ないが、古文ではよく目にする語なのでこの機会に覚えておくこと。(b)(c)は現代語の「あからさま」「ならふ」とは異なる意味を持つ語。どちらも頻出語なので覚えておきたい。

(三) 「採点基準」

(i)

「a」いづれ、(c)が、bあきにあはではつ、cべき」を「a」どちらの草が、b秋にならないうちに枯れる、cだるうか、いや、どちらの草も秋になって枯れるだろう」と訳して — 5点

* a部1点、b部3点、c部1点。

(ii)

「a」仏御前も私祇王も、b結局清盛に飽きられてc終わるだろう」と説明して — 5点

* a部2点、b部2点、c部1点。
「秋」と「飽き」の掛詞は押さえられていたが、二重の意味をきちんと把握できている答案は少なかった。和歌は人物関係や和歌前後に書かれた内容との関連を押さえて読解しなければならぬ。リード文の内容も踏まえて検討すること。

(四) 「採点基準」

「a 参る b まじくは c そのやうを d 申せ。 e 淨海が f はからふ g 旨あり」を「a 参上し b ないつもりならば c その理由を d 申し上げよ。 e 私も f 考える g ところがある」と訳して

——8点

* a 部1点、b 部2点、c d e f g 部各1点。

傍線部の中にポイントとなる単語や文法事項が複数含まれており、それぞれを適切に訳出することが求められている。助動詞「まじ」を「……ない」と訳した答案が目立ったが、これでは打消と区別がつかないため、打消意志であることがわかるように訳出したい。

(五) 「採点基準」

「a 祇王の b 都を追放されることを恐れる母の願いを受け入れて c いやいやながら清盛のもとに行く d つらい気持ち」を押さえて

* a b c d 部各2点

問題文の展開を整理し、清盛邸への参上をかたくなに拒んでいた祇王が、母に強く説得されてようやく清盛のもとへ参上したという経緯を押さえる。(母の願いを受け入れて) (清盛のもとに行く) どちらか一方しか押さえられていない答案も見受けられたが、祇王自身の心情としては両方を説明しておきたい。

(六) 誤答は各選択肢に分散した。「露」が(祇王自身)を表すという比喻、清盛と祇王が別れた翌年の

春という状況を結びつけて選択肢を検討すること。和歌は入試でも頻出なので、苦手意識は早いうちに克服しておきたい。

(七) 誤答は(ハ)が目立った。内容合致の問題では、現代文同様、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。解説と問題文全訳を参考に、誤りのポイントを確認しておこう。

四 漢文

(一) いずれも基本語彙だが、特に(a)「所以」を「ところをもつて」、(b)「尽」を「つきる」「つくす」などと読んでしまっている場合は要注意。漢字の読み・字義は、内容読解の重要なポイントになる。これを機に、しっかり覚えておこう。

(二) 文脈把握の設問。ここで間違えてしまった人は、問題文を丁寧に読み取り、文脈を追っていく読解を心がけよう。

(三) 「採点基準」

「必ず a 我の行くや、b 漢の c 患ふる者と d 為らんと」を「a 匈奴に私が行ったなら 必ずや b 漢の国が c 困ることに d なりましようよ」と訳して

* a 部2点、b 部1点、c 部2点、d 部1点。

〈中行説が匈奴に行くこと〉は押さえられている答案が多かったが、「漢の患ふる者」という表現の処

理に苦戦しているものが目立った。「漢の患者」「漢の病気になった者」では意味が通らない。(漢が困る・悩むことになる) という大意を押さえよう。

(ii) 誤答はさまざまに分散した。(中行説によつて漢が困ることになる) という傍線部の意を押さえ、受身・使役の関係を整理して考えよう。

(四) 「採点基準」

「a 綿入れは藪草や棘の中を動くとき裂けたり破れたりするのに対し b 毛織物はそのような影響を受けず、機能性・耐久性の面で優れている」点を押さえ

* a 部3点、b 部7点。

記述問題に回す時間がなくなつたのか、白答の答案も見られたが、(綿入れは破けやすいが毛織物はそうではない) という大筋は押さえられている答案が多かった。毛織物が優れている理由について説明するので、その具体的な特徴から一歩踏み込んで、(機能性・耐久性) についても説明できるとよい。

(五) 完答できている答案は多くなかった。誤答が目立ったのは(ハ)。問題文中から確実に読み取れることかどうかに注意して選択肢を吟味しよう。